



5・18記念公園



テコンドーを体験した。写真は南部大生らの試技

# 韓国光州・広岡ゼミ合宿 韓国民主主義の 原点をさぐる



書店に並ぶベストセラー「嫌韓論」「呆韓論」などがいまの韓国に対するイメージだろうか。韓流ブームのころとは大きな違いが生じている。中央大学・広岡守穂法学部教授と広岡ゼミ生ら14人が9月の4日間、韓国南部の光州市を訪れた。目的は「光州事件、韓国民主主義の原点をさぐる」。中大生が見たものは何か。感じたものは何か。ゼミ生による韓国レポートをお届けする。大久保舞さんがまとめた。

報告／ゼミ生 大久保舞(法学部3年)



光州の街並み

## 光州事件

光州に行った私たちの目的の一つは、初めにも述べたように光州事件について理解を深めることだ。

光州事件とは、1980年5月、軍部の独裁政治に不満を持った光州の民衆が立ち上がった運動である。私たちは滞在2日目に、光州市人権オ

ンブズマン、元5・18ユネスコ世界遺産推進団長であるアン・ジョン Chol 先生に光州事件について話を聞いたが、その内容は私たちの当初の印象と異なった。

光州事件は軍部の政治に対し不満をもった民衆たちが「皆で」立ち上がり、皆で運動をしていたのだと思っていた。しかし実際は、立ち上がって軍部に抑圧された民衆の家族が集

## ●実施内容

- ・ 韓国光州市で韓国の民主主義を支えるものが何であるかを考える。
- ・ 光州事件の関係者に聞き取りを行う。
- ・ 韓国人知識人から韓国政治と社会の特質について講義を受ける。
- ・ 強制労働の関係者の話を聞く。
- ・ 伝統文化体験を通じて韓国人学生と交流する。
- ・ 中心部と郊外の町を視察し、関係者に聞き取りを行う。
- ・ インターネットの普及、市場のつくり、モータリゼーション、学校での深夜までの補習、郊外道路と沿線の景色など日本の地方都市との異同について比較する。



## ●滞在時の主なスケジュール

- |              |  |
|--------------|--|
| 1日目          | ▽9月16日 羽田空港発—韓国・金浦空港着、龍山駅へ地下鉄で移動、龍山発の高速鉄道(KTX)で光州着。プラドホテル泊。  |
| 2日目          | ▽ 17日 貸し切りバスでホテル発、記念公園視察。南部大学・全南科学大学12人と交流。公園内研修室で光州事件についてアン・ジョン Chol先生(光州市人権オンブズマン、元5・18ユネスコ世界遺産推進団長)の講義を聴く。昼食(創作伝統料理)、南部大学に移動。韓日比較文化講義(金正勲全南科学大学副教授)、韓国文化体験(南部大学・全南科学大学生12人と交流)、テコンドー、夕食(韓国風しゃぶしゃぶ)。 |
| 3日目          | ▽ 18日 ホテル発竹緑園、潭陽メタセコイヤ並木道、昼食(モチャーレストラン)、中心市街地へ。南部大学講義(韓国事情)。自由行動(市場)。勤労挺身隊ハルモニを囲んで食事(ホテル内の中華レストラン)、勤労挺身隊市民の会李国彦代表のミニ講演。  |
| 4日目<br>(最終日) | ▽ 19日 ホテル発タクシー、光州発KTXで龍山へ。買い物(自由行動)、ソウル発—羽田空港着。  |

結し、大切な人のために起こした運動なのだという。最愛の家族や恋人が、軍部によって弾圧を受け、それに対して民衆が立ち上がった。

渡韓前の授業で「華麗なる休暇」という光州事件を題材にした映画を見た。2007年製作の有名な作品で、「冬のソナタ」でも使われているメタセコイヤ並木道で撮影した。

この作品でも、主人公カン・ミヌは

唯ひとりの家族、弟カン・ジヌが運動に参加。軍により殺されたことによって運動に参加した。身の周りの人間が運動に参加することで、その周りもともに軍に立ち向かっていく。

映画を見て、私は衝撃を受けた。軍は、光州から撤退すると公言しながら、広場に集まった民衆を銃撃した。映画の世界ではない、事実とし

ての歴史に驚きを隠せなかった。

5・18記念公園で、亡くなった人の墓や当時の写真を見たとき、何とも言えない気持ちになった。<5月18日に大学を封鎖した軍部と民主化を叫ぶ学生が衝突した>

光州事件は、韓国が民主化するために必要とされるが、あってはならないことが行われていた。今回の合宿で光州事件を知った。



潭陽のメタセコイヤ並木を歩く



アン・ジョン Chol 先生

## 勤労挺身隊

勤労挺身隊ハルモニ（おばあさん）を囲んで3日目の夜に食事をした。日本が占領下の韓国に何をしたか。話をしてくれたハルモニは現在86歳。若者らに各所で講演をしているという。

ハルモニが述懐した。こう言われたという。

「日本に行ったら勉強ができる」

それを信じた。親にも知らせず、隠れて親のハンコを持ち出し、学校からの書類に判を押した。家を出て分かった。勉強できるという話は嘘であり、日本に渡って働かされ続けた。



新聞の見出しは「事件の現場を見て、民主主義の大切さを実感しました」。ゼミ生、下田実加子さんが取材を受けた

「なぜ中学校にいけないの？」  
「働いたら中学校にいける」

勉強したいと向学心に燃え、覚悟のうえで家を出た子供をだますことは、同じ日本人として許しがたい。

小・中学生で親元を離れることにどれだけの決意が必要だったのか、それを考えると辛い。

ハルモニは涙をにじませながら話をしていた。私たちが今回話を聞いたのは、ほんの一部にすぎないだろう。一部だけでも、どんなにひどいことが行われていたのかが理解できた。

事実をもっとひどいことをしているようで、学生に話す言葉も穏当で、表現もオブラートに包んでいたように思われた。

## 観光ツアーを超えたゼミ合宿

合宿では多くの人に巡り会えた。観光ツアーでは見えてこない韓国について知ることができた。韓国人は日本人を嫌っていると思っていたが、そのようなことはなく、私たちが関わった人たちは皆、とても親切に接してく

れた。広岡先生の知人、金正勲先生夫妻には全4日間よくしていただいた。韓国の食べ方を習った。

すべての韓国人が日本に反感を持っていないとは言えないが、親日の人もいることを肌で感じた。

韓国人学生との交流を通して、韓国の伝統文化に触れ、歴史に触れることができたのは、とても良い経験になった。個人旅行ならば光州には行かなかっただろう。5・18事件についても、勤労挺身隊、文化交流、全てにおいてゼミ合宿ならではの体験であった。

## 肌がきれい

ツアーも楽しんだ。幾つか紹介しよう。

「韓国の食事といえばキムチ」というのが、渡韓前の印象だった。在日韓国人の友人から、キムチは自宅で作る、と聞いていた。

実際の韓国の食卓に、なんとほぼ毎食キムチがでた。おなじみの白菜キムチ、大根キムチ、中にはカニのキムチもあった。甲羅が硬く、口の中で

刺さるため注意が必要だが、とてもおいしい。日本のキムチには酸味を感じた。韓国のは酸味がないが、辛かった。韓国ではあらゆるものが辛かった。

野菜も多く食べた。私は帰国後とても肌の調子がよくなり、うれしい収穫だった。韓国女性は肌がスベスベ。街で太った人を見かけなかった。食生活がそうさせるのだろうか。

## 蜂の子食べた

「日本にはない韓国」を体感したのは市場である。広岡先生からもらった「蜂の子」の味は今でも思い出せる。見た目からして蜂の子そのもの。かむと液体が勢いよく出てきた。味はサクラエビのよう。見た目と味にギャップがあり、よく覚えている。

## 少ないスカート女子学生

韓国の学生たちに会って、気になることがあった。女子学生たちの服装。全体的にスカートの学生がいなかったのである。テコンドーをしたとき、私たち学生6人中5人がスカートだったため、足蹴りを体験できなかったのに対し、韓国女子学生はパンツスタイルが多い。

街でもパンツスタイルの女性を多く見かけた。日本で人気のある韓国少

女グループもパンツスタイルで、大人っぽさやかっこよさが伝わってくる。お国柄なのかと思った。

私たちは地方都市の光州から入り、帰路はソウルから。「韓国」を体感できたのは光州だった。海外旅行では、地方都市へ行くのは治安の面から敬遠しがちだが、ソウルでは味わえないことを体験できた。韓国らしさを体験したいのなら、ソウルを出てみるのも一興だ。

## ひと昔前の日本か

光州の街はまるで映像で見る、ひと昔前の日本のようだった。道はデコボコ、車体がガタガタ揺れる。割り込



創作伝統料理(光州で)



大型デパート(光州で)



日本からのお土産を韓国学生に手渡す広岡先生



ソウルで見かけたショップ

### ■ゼミ紹介／中央大学広岡ゼミ

広岡ゼミは実践的な学習を重んじています。自治体と連携して調査し、一般市民に開かれた公開ゼミを行います。ことし春学期は東京・羽村市の一般市民対象の研修に企画から司会進行まで協力しました。秋学期では自治体の男女共同参画施策の調査を担当。毎年夏休みに合宿を行い、ことしはグローバル人材育成の観点から初めて海外へ遠征しました。ゼミには毎年40人前後の応募者があり、選抜に苦労しています。

### 韓国合宿・参加学生 12人

氏名	学年	氏名	学年
大久保 舞	3	林 恵佑	3
下田 実加子	3	川野辺 将士	3
中野 理紗	3	大脇 和志	3
村上 智洋	3	山田 双葉	3
島村 雄人	3	木村 美緒	3
森田 翔子	3	前里 実	4

■引率 広岡守穂・法学部教授